

第1回西区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

I 日時：平成28年8月4日（木）午後7時～9時

II 場所：西区役所3階健康センターホール

III 出席委員（全15名）

永松会長、河村副会長、塚本委員、岩本委員、上野委員、中村委員、下田委員、末次委員、子出藤委員、内藤委員、林田委員、益田委員、大森委員、江藤委員、金森委員

IV 議事要旨

1 議事 <進行：永松会長>

(1) 熊本地震について 資料1

・熊本地震7月29日現在の報告（総務企画課）

（永松会長）大災害ということで、各所でさまざまな問題が発生し市として今も取り組んでいると聞いている。本来であれば、各委員に話しを聞きたいが時間的に難しいので、将来に向けた教訓も含めていずれ機会を設けて意見を頂きたい。本日は、今年度のまちづくり事業について意見を頂きたい。

(2) 西区まちづくり事業について

①今年度の西区まちづくり懇話会について 資料2

・震災によるスケジュール変更について説明（総務企画課）

（永松会長）今年度の懇話会は、このスケジュールに基づいて開催される。

②平成27年度まちづくり事業報告（上熊本エリア魅力発信事業） 資料3

・平成28年3月開催の事業について説明（花園まちづくり交流室）

（永松会長）この事業は前回の懇話会以降に開催された事業なので報告した。アンケート結果を見る限り大変好評だったようだ。

③平成28年度まちづくり事業計画 資料4

・平成28年度まちづくり事業計画一部縮小について説明（総務企画課）

(永松会長) 震災後四ヶ月が経過したが、震災対応が最優先ということと地域の状況を考えると、一部縮小での実施は止むを得ないと思う。いずれにしろ復旧、復興が最優先されるので、ある程度平常に戻るにつれて、この種の事業も元通りに開催されていくと思う。何か質問や意見はないか。

(岩本委員) 震災で何も出来なかった期間を、どうやって取り戻すのか。今回の震災で水の有り難さを感じた。私たちは自然の恵みや地下水について、もっと知る必要があるのではないかと感じた。

(河村副会長) 過ぎてしまった時間を取り戻すことは出来ないが、この経験を地域の人たちと一緒に残すことが大事ではないか。

(永松会長) 市の対策本部などでも考えていると思うし、すでにいろんな大学からも調査に入っている。東日本大震災の時もそうだったが、取り組むまでに一年半くらいかかっている。今後、復旧が済んで復興に入る段階で将来に生かす教訓として取り組まれると思う。

(河村副会長) 震災直後に普段話したことのない近所の人が「一緒に逃げるよ」と声をかけてもらったとか、妊婦で列に並んでいると順番を譲ってくれたとかいう話を聞いた。そういう小さな声も記憶が新しいうちに残す必要があるのではないか。

(永松会長) 記録を残すのは私たち研究者の役割でもあるので、行政に全て任せるのではなく、それぞれに出来る範囲で大切なことを忘れないよう記録を残して行けばいいと思う。こういった大きな災害時は、立場を越えて自分達が出来てやる「共助」が一番大事なので、自治会と消防団とか近所同士で助け合ったとか、それぞれの地域にある「共助」の形を残すのは必要だと感じている。

(塚本委員) 今までに経験しないようなことを経験した。たとえば、自主防災クラブはあるが、うまく機能しなかったことも、今回の地震を生かして見直しが必要と感じた。今、話があった「共助」についてはうまく行っていたと思うので、この時期を逃さないよう校区や町内でも取り上げて、もっと具体化できたらと思う。

(益田委員) 減額されたまちづくり事業経費は、次年度に持ち越すのか。それとも、新規事業を検討するのか。

(永松会長) この事業費は持ち越しはしない。減額した事業費は復興予算に回すことになる。

(中村委員) 新しい防災無線は活用出来るか。震災時に使えなかったと思う。

(総務企画課) あの地震発生時は準備段階で使用してなかった。現在は使用できる。

(3) 西区フェスタについて (テーマと概要について)

資料5「第3回西区フェスタ概要(震災後見直し案)」に沿って説明(総務企画課)

(永松会長) 資料の「1目的(4)(5)」が新たに加わっているが、これは両方とも大事だと感じている。復興には、健康が重要だと皆さん身にしみて感じたのではないか。西区フェスタのテーマとして「復興と健康」を挙げてあるが、これに関して皆さん何かご意見はないか。

(岩本委員) 復興も大事だが健康はもっと大事。二つをテーマにしていくのは、非常にいいのではないかと思う。自分の年齢から考えると、もっと長生きして寝込まないようにしたい。よりよい生活ができるような西区であってほしい。美味しいものが海から山からやって来て、それが健康の源となる。テーマとしては健康が一番先に来てもよいと思う。

(末次委員) まちづくり事業全体に関連することだが、震災が起きて地域の人はまちづくりへの意識が高まり、行政が行うまちづくりは期待されていると思う。西区フェスタについては、避難所にいた人達が再会でき、体験談を語り合い励まし合い今後の復興に向けて考えることができる場になるだろう。防災の意識は高まっているので、皆で楽しめるような企画が出てくると良い。

(永松会長) 確かに、再会の場としても活用するというのは大事だと思う。他に、ご意見はないか。「復興」「健康」の二つのキーワードをテーマとすることはよろしいか。また、日時についても他の行事と重ならないので多くの人に参加しやすいと思うが、事務局の提案で進めてよろしいか。

(異議なし)

(永松会長) それでは、フェスタの概要については資料5のとおり3つのエリアで行うことになると思う。イベント内容について事務局から詳しい提案を説明されたが、今日は大まかな項目や、細かい内容を出していく際の考え方などを決めていくこととし、次回に具体的に何をしていくかを出し合っていきたいと思う。

では、全委員に順次ご意見をいただきたい。

(内藤委員) 気がついたことをランダムに述べたい。感想として聞いてほしい。まず、テーマについて、先ほど出た「復興と健康」の順番だが、小さなことのように結構重要なことではないか。復興というの

は、早くしなければならぬことだが、あまり強調すると取り残され感が生じてくるのではないか。取材を通じて復興に差が開きつつあることが明確になってきている。あまり、復旧、復興を急ぎすぎるのもどうかという気がしている。それよりも健康が一番で、元気が出なければ先に進めないで、健康を先にした方がよいのではないかと思う。ところで、集客数の目標というものはあるのか？

（総務企画課） 昨年の来場者が約 2 5 0 0 名であったが、会場の広さから昨年くらいが限度と
思っている。

（内藤委員） 「復興・健康」以外にテーマの例としてエリアを挙げてあるが、地区ごとに年次で取
り上げた場合、来場者にテーマの違いが十分に伝わらないことがあるので、テーマは地区割りでない
ほうが良いかもしれない。

防災がらみの遊びのイベントがあったら面白いと思う。缶詰でローソクを作るとか牛乳パックでお
米を炊くとか色んなやり方がある。

（林田委員） 日程は 1 月 29 日が一番よいとのことだが、近くで植木市が開催されるようなので
重ならないか気になるところだが。

（総務企画課） 植木市が近隣であるかどうかは未定であるが、例年、植木市の開催は 2 月 1
日ではなかったか。

（林田委員） 重なったとしても賑わいが増幅してよいかもしれない。テーマの順序は「健康と復興」
がよいと思う。さっき、「牛乳パックを使った遊び」の例が出されたが、そんな身近なものを使ったイベン
トもあったら良いと思う。

（永松会長） ちょっとした知恵だと思う。子ども達と一緒に親も学ぶイベントがあったらいいと思う。

（大森委員） 家族そろって参加する方が多いので、子どもからお年寄りまで買い物だけでなく楽し
めるイベントがあるとよいと思う。

（江藤委員） テーマについて「復興と健康」といった方がこの時期インパクトがあるのかと
思っていたが、皆さんの意見を聞いていたら「健康と復興」でも良いと思う。自分はいつも子ども達と関わって
いるので、親子で知恵を学ぶというのは良いと思う。

（金森委員） 「漱石俳句かるた事業」で思ったのが、子ども向けにかかる会を行うだけでなく、例え
ば俳句ポストを設置するなど一緒に来る大人も楽しめるように連動して実施するとよいと思う。

（子出藤委員） 今年のフェスタでは急遽、自分のたまねぎを販売した。西区でも美味しい野菜を

作っている農家がたくさんいる。最近、復興支援ということで東京に地元野菜が高値で販売されたうえ、好評につき再販を依頼されたところ。農家の顔が見える形で販売できれば、お客さんも安心して採れたて野菜を購入できると思う。西区フェスタでも農家が西区の農産物を直接販売できるような体制があれば良いと思う。

（西農業振興課）子出藤委員がおっしゃることはもっともだと思う。私どもも西区フェスタでは、農協にこだわらず美味しい野菜を作っておられる農家には声をかけさせてもらっている。それに加えて農協の共販と2パターンで販売をしている。また、品物については、生産者側と消費者で考え方が違って、生産者は高くても良いものを作りたいし、消費者は値段も考えて買いたい。良いものの量を増やして少し安く売るなどの手法やアイデアは生産者の方々にお任せできればと思う。頑張っておられる農家の方に声を掛けて販売すると農協の共販との両輪でやっている。

（末次委員）「漱石かるた会」では、俳句とかコンテスト形式にして賞品等も用意すると参加者が増えて良いのではないかと。俳句になっていないものも出てきたりして面白いのではないかと。

（永松会長）会場内で作品を募集し、その場で結果発表するのも面白いかもしれない。

（下田委員）過去のフェスタでは、河内校区の人と会ったことがない。フェスタの目的「（1）多くの地域が参加し、地域間交流が深まること」ができていないんじゃないかと思う。いかにして地域の人が参加できるかが課題だと思う。そのためには、準備段階から西区フェスタが自分達の祭りであると意識させることが必要。具体策として、出し物を各地域から出す、農産物を販売する、健康まちづくり報告会を各校区からやるなどはいい考えだ。また、広報について、もうちょっと各地域の自治協に早めからやる等が考えられる。また、西区フェスタに合わせて各地域でイベントをやる等もひとつの方法ではないか。

（永松会長）地域の人に参加するとそれを家族が見に来るという効果はあると思う。また、広報については以前から指摘をされているので、年々改善されているようだが、なぜ、河内地区がそんなに少ないのか、地元に住んでおられる委員のお知恵も拝借しながら検討していきたい。

（中村委員）先ほど出た「防災遊び」について。牛乳パックやアルミ缶を使ってご飯を炊くなどの体験コーナーは面白いと思う。公民館には調理室があるので、河内みかんを使った料理教室など特産品を使った教室をすると楽しいし参加者も広がるのではないかと。以前、市場の料理人を呼んで魚の料理教室をしたときは人気があった。

（永松会長）天草などでは、地引き網を親子で体験したあと漁師がその場で魚をさばいて試食するようなコーナーがあったりするが、家族で体験して食べるイベントは面白いと思う。

(西農業振興課) 本来は、当課がやっていくべきことだろうと思っている。去年は、子出藤委員の塩たまねき等を使ってパトリス・ジュリアン氏を招いて料理教室をやらせていただいた。しかし、今年は震災の影響から体制が取れず農産物の販売に特化させていただきたい。来年は、農産物を活用したイベントも検討していきたい。

(永松会長) 確かに、今年は震災対応で大変な年であるため、企画や実施は、簡素で気軽に楽しめるようなものになろうかと思う。

(上野委員) 私は会場の近くであるが、河内と同様に自分の校区の人が誰も行っていない。告知は誰が何をやっているのか、市政だよりとチラシが一枚来るがそれではまずいと思う。「地域」という言葉を使っている以上、地域に密着したやり方をしないと。自分達の展開の責任もあるかもしれないが、限られた人のやり方でしてしまうと必ず見放されてしまうと思う。下準備をしてどうやって地域の中で展開していくかを考えていく必要がある。昨年の来場者は1年目より2～300人しか増えていない。さっき、2500人が上限だと聞いた。これを地域の中で徹底して展開していったら、もっと増えると思う。盛り上げていかなければと思う部分と受入れ体制が限られているという点があることを頭に入れておかなければならない。駐車場の環境もあるかもしれないが、今年は徹底してやっていこうと思う。あまり堅苦しくならず、行ってみて楽しかったという身近なフェスタになればと思う。

(永松会長) 過去に私がやった手法では、公用車にイベント告知のマグネットを貼って走るようにした。市政だよりは見ない人もいるかもしれないので、嫌でも目に付く方法を考えた方がいいかもしれない。

(内藤委員) 2500人が上限ということなので、あまり集客が増えてもいけないのか。

(上野委員) もっと増やしたいという思いとこれ以上増えたら限界というギャップがある。

(内藤委員) 広報の手段として、うちのテレビを使ってもらうのは構わない。しかし、テレビで告知すると結構な反響があり来場者が増えると思う。

(塚本委員) 私は、テーマに「復興」というのは是非入れていただきたいと思う。こういう経験は一生のうちにもうしないものだろうし、これを大事に残していかなくちゃいけないと思う。いままで健康づくりというのは、地域と密着して活動されてきて健康意識もあがってきたし、維持していく必要もあるので入れるのはよいと思う。

「復興」をテーマにするのに、再会とか意見が出てきたが、すでに「あのときお世話になりました」という声が出てきているので、そういう感謝の気持ちや体験を言葉に出して伝えるのはとても良いと思う。意見発表のようなものをいれるともっと良いのではないか。これまで、健康づくりは地区代表の発表をしてきた。今回は、代表者の発表ではなく、特に子どもが避難所のボランティアで活躍していたの

で、そういう人たちの意見や体験も入れるのも良いのではないか。

（永松会長）確かに、テレビでもかなり扱われているように、子どもボランティアが避難所で頑張っている姿を見ると疲れている人も元気をもらえるようだ。

（岩本委員）復興は、潰れた家をどう片付けようかと思っている。九死に一生を得た家族も身近にいる。また、避難先では話し相手がいないとのことで、たまに地元に戻ってくる人のために町内で食事会をやっている。物資などの支援は今でも続いており、各町内、各家庭に分配している。分配作業でも助け合いや協力ができていて、ありがたいという高齢者の声が聞こえる一方で、余っているから余計に貰おうとする人もいて人間模様が現れている。支援の輪がまだ続いていてありがたい反面、復旧は早く終わって貰いたい。町内では、倒壊した家屋が多いので現存している家が少なくなり、今後どうやって人に来てもらうかが課題である。そのためには健康でいなければと思う。

（河村副会長）皆さんのお話を聞いていて、具体的な話からコンセプトに至るまでたくさんのアイデアが出されて良かったと思う。元氣や再会、あの時言えなかった感謝などポジティブな面が活動に出てくると良いと思う。フェスタの副題としては、先ほど末次委員の発言であったように「お元気ですか？」と確認し合うような、少し優しい感じでも良いのかと思う。

（永松会長）個人的なコメントを述べると、復興において「頑張れ」という言葉がよく使われていてあちこちで見掛けたりするが、今でも頑張っているところに重ねて言われると少し疲れが増す人もいるようだ。これについても、皆で議論して決めていきたい。

本日は、そろそろ時間となったので、具体的な企画については次回お聞きしたい。この辺で意見交換の時間を終わらせていただく。では、事務局に進行をお返りする。

（総務企画課）多くの貴重なご意見をありがとうございました。これをもとに基本仕様の素案を練る。次回では、具体的な企画などについてご意見をいただければと思う。では、事務連絡を2点。まず、熊本地震復興に関する地元土産品の紹介をさせていただきたい。

・熊本国際観光コンベンション協会・復興商品のチラシを説明（総務企画課）

次回まちづくり懇話会の日程について。次回は9月8日（木）19時から本会場で開催。なお、次回はマイナンバー通知カードの写しをご提出いただくようお願いする。続いて、地域のイベントについて中村委員から告知をお願いしたい。

（中村委員）花火大会のポスターを配付してもらった。8月12日に熊本港まつりで花火を2千発上げるように準備をしている。午後2時から魚のつかみ取り大会、出店、バンド演奏、中島太鼓、セスナの飛行などを予定している。よろしくお願ひします。

(総務企画課) 最後に、森区民部長が一言ご挨拶申し上げます。

(森区民部長) 長時間に渡り熱心なご審議をいただきありがとうございました。私も4月に着任直後に震災となり、右も左も分らないうちに今日に至った。今からいよいよ本来のまちづくり事業が始動する。今日の懇話会をとおして、これなら西区を元気にできるかなと感じた。また、今度の土日には春日「ぼうぶら祭り」、日曜には島崎「サマーフェスタ」などあちこちで元気が出るようなイベントが開催される。今後もさらに絆を強め、これを広く発信していけたらと思う。本日は本当にありがとうございました。

閉 会